

専門ゼミB		演習	教授 竹内 成生	
科目カテゴリー	スポーツマネジメントコースの必修科目, スポーツトレーナーコースの必修科目	科目ナンバリング	13130302	

1. テーマ

本ゼミでは心理指標と生理指標を用い、スポーツ・健康の生理心理学的評価をおこなう。

2. ゼミのねらい・概要

我々は日常行動の多くの場面で生理-心理的な制約や影響を受けている。例えば、過緊張場面では視野が狭まり、複雑かつ咄嗟な行動が困難になる。このような生理-心理的な関係性から最適パフォーマンスを発揮するための方法を探ることが可能である。更には競技スポーツだけでなく、健康スポーツに代表される健康行動の解釈や、行動傾向の改善においても生理心理学的な視点は有用である。本ゼミでは生理心理学的研究手法を用い、スポーツや健康に関する理解を深めることをねらいとする。また、問題提起-検査-実験-考察という一連の作業を通じて論理的思考と表現能力、客観的データの見方を養うものとする。

3. ゼミ計画

1. 心理分野の研究法実践 7 (研究倫理を知る)	9. 生理心理学的検討 1 (心理・生理的測定を行う)
2. 心理分野の研究法実践 8 (研究計画を考える)	10. 生理心理学的検討 2 (心理データの集計)
3. 心理分野の研究法実践 9 (研究計画を作成する)	11. 生理心理学的検討 3 (生理データの解析)
4. 心理分野の研究法実践 10 (実験・調査する)	12. 生理心理学的検討 4 (総合解析と解説)
5. 心理分野の研究法実践 11 (データを集計する)	13. 卒業研究テーマの打合せ (学生半数)
6. 心理分野の研究法実践 12 (データを解析する)	14. 卒業研究テーマの打合せ (残り学生半数)
7. 心理分野の研究法実践 13 (結果を理解する)	15. 後期のまとめ
8. 心理分野の研究法実践 14 (結果から考察する)	

4. 準備学修 (予習・復習等) の具体的な内容及びそれに必要な時間

自身のテーマを早期に決定できるよう、興味に関連した文献を収集・熟読し、ポイントを整理しておくこと。また自身研究に関係する周辺知識の理解や実験・調査手法、とデータ処理の習得等を含め準備学習時間として 2 時間程度を要する。

5. 課題 (試験やレポート等) に対するフィードバックの方法

生理データ取得・データ分析時に適宜、コメント・指導する。また、論文紹介やディスカッションにおいて各自に講評をフィードバックする。

6. ゼミにおける学修の到達目標

生理心理学的研究手法によるスポーツや健康に関する理解を深め、卒業研究に必要な論理的思考と表現能力、客観的なデータの見方を養うことを目標とする。なお、年間予定している主なテーマと到達目標は以下のとおりである。

- ・ 心理学分野の専門書、実験・調査論文などを用いて心理学とその検討方法の理解を深める。
- ・ 生理・心理学的検討において用いられる指標の紹介とデータの見方の基本を学習する。
- ・ 模擬データを実際に取得し、検査・実験方法とデータ処理を習得と解析手法の理解を深める。
- ・ 興味テーマに関する議論からテーマの絞り込みをおこなう。

各自、決定したテーマについて予備実験・検査を実施する。

7. 成績評価の方法・基準

発表内容 (30%)、発表資料 (30%)、授業態度・積極性 (40%) を基準として総合的に評価する。

8. テキスト・参考文献

テキストは特に指定しない。しかし、心理学の基本ならびに周辺分野を広く網羅しており、事典・参考書として最適であることから、参考図書として以下の書籍を推奨する。

※鹿取 廣人・杉本 敏夫・鳥居 修晃（編） 心理学（第5版補訂版） 東京大学出版会（ISBN-13: 978-4130121170）

※山崎勝男（監修） スポーツ精神生理学 西村書店 （ISBN-13: 978-4890134298）

9. 受講上の留意事項

スポーツ・健康に関する生理心理学的評価方法を学び、スポーツ・健康活動に関するテーマを学生自ら率先して見出すことを期待する。

10. 「実務経験のある教員等による授業科目」の該当の有無

該当する。障害を対象とした研究機関での実務経験を活かして指導する。

11. 卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連

上記の「科目カテゴリー」欄の記載のとおり。